

# 浜田のお宝「今福線」

大畑 富紀

## 1. はじめに

今福線研究分科会は5年目を迎え、これまでは、現地踏査にておろち泣き橋の発見、地域との交流、さらには、中国地方地域づくり等助成事業にもとづき平成 25 年度助成事業としてHP公表用マップを作成した。

今年は、はじめからビックなニュースが飛び込んできた。浜田市長が今福線のシンポジウムの開催を発表され、関係機関も開催にむけて準備を進める動きが始まった。そのため、今福線分科会としてもこれまでの成果を踏まえ、参画することとなった。

また、今年は観光スポットとして遺構巡りを主にしたツアーの企画や鉄道遺構とて新聞会社からも注目をあびるようになりなってきた。

ここでは、今年度の活動として、シンポジウムに向けての準備状況と追加調査により発見した遺構について報告する。

## 2. 今年度の活動内容

- ・ 2 月 9 日(日) …… 今福線マップHPにて公表
- ・ 2 月 13 日(木) …… 浜田市長訪問（今福線マップと研究報告書を浜田市長へ）
- ・ 4 月 27 日(日) …… 合同現地協議（浜田市関係部署、地元自治会）
- ・ 7 月 12 日(土) …… 今福線研究分科会 初回打合せ（出雲市立斐川図書館）
- ・ 7 月 29 日(火) …… 全体会議（浜田市関係部署、地元自治会、技術士会）
- ・ 8 月 26 日(火) …… 現地調査（浜田市関係部署、関係業者、技術士会）
- ・ 9 月 30 日、12 月 2 日、12 月 24 日 第 1～3 回事前打合せ（実行委員会）
- ・ 10 月 11 日、14 日 …… 下府橋梁取り壊し状況調査
- ・ 11 月 15 日(土) …… 第 2 回打合せ（観光スポット、シンポジウムへの準備等）  
下府橋梁～第一下府川橋梁
- ・ 11 月 16 日(日) …… 現地調査（丸原地区）

## 3. 広がる今福線の魅力

今福線は 2 月 13 日の浜田市長訪問をきっかけに、シンポジウム開催という当面の大きな目標に向け、さっそく動きがあった。まずは、4 月下旬には関係部署と合同現地協議を行った。観光スポットとして現地状況の確認や危険箇所の把握、さらには整備方針や安全対策について話し合った。

それ以降は数回の会議や看板等について追加の現地確認が行われた。



写真1：合同現地協議

一方、私どもが知らない間に、今福線（実際は広浜線）を観光するツアーも実施さ

れており大好評だったようだ。また、11月24日に記載された盆子原さんの記事を見られた旅行会社からも問い合わせがあった。これまで眠っていたお宝が注目を浴びる年となった。

さらに、浜田市では「浜田のお宝」大募集！として473件の応募があり、お宝総数は312件もあった。その中で、今福線は第3位に選ばれた。これは一般の方も興味を持っておられる人が多いことを示しており、応募された「お宝」について、保存活動の継承や浜田の観光コースづくりに活用されることを期待されていると思われる。

このように、鉄道ファンだけでなく、地域の人々、関係機関、旅行会社などからも脚光をあびるようになった。



写真2：参加された皆さん



図1：お宝Best3(浜田市HPより)

#### 4. またまた発見！

今年度の今福線現地調査は、関係機関との合同調査も合わせ、例年より多く現地調査を実施した。その中で今回もさまざまな発見があった。

##### (1) サクラ

これまで現地調査は秋に実施していたため、マップの写真や報告書等の写真はほとんどが秋のものばかりであった。そこで、桜の開花時期に合わせ、春の状況を調査した。線路敷沿いにサクラの木は僅かしかないが、JR用地に高速道路の橋脚がある箇所では、遺構の橋脚や遠方の高速道路とうまくマッチしている写真が撮れる。また、土木遺産銘板がある4連アーチ橋の背景にもサクラが咲いていた。



写真3：春の橋脚



写真4：春の4連アーチ橋

##### (2) 橋脚

これまで、川沿いの橋台や橋脚は過去の資料からほとんど調査を行ってきた。しか

し、以前から他にも遺跡がないか気になっていた。そこで、渡河する橋梁は3径間であることに着目し、橋脚がありそうな箇所を調査した。その結果、調査日は水位が低かったこともあり、2つの橋梁について橋脚跡を発見することができた。



写真5：今福第五トンネル下流側



写真6：今福第五トンネル上流側

### (3) トンネル坑口

今福第一トンネルの下府側の坑口は、初年後の調査時には下流側を調査したが、発見できず断念せざるを得なかった。また、上流側からは土砂が堆積しており、トンネル内で引き返さなければならない状況であった。そこで、今年こそ発見するという強い意志をもって再度調査することとした。既存の資料から延長や方向を把握し、地形図に作図することによって坑口となりそうな谷筋を目指して山に入ることにした。

【ついに発見】谷筋にはすぐ線路敷の擁壁を確認し、さらに進むと念願のトンネル坑口を発見することができた。トンネル内は壁面から流出した土砂で覆い尽くされており、長靴でも歩くことがままならない状況であった。

【盛土部と函渠部】線路敷きを進むと、盛土区間にたどり着いた。そこには、当路線の山間部には珍しく土羽構造の盛土と横断函渠を確認することができた。



写真7：今福第一トンネル



写真8：盛土と函渠

### (5) 時代の流れと共に

今福線の遺構の中で、下府駅側の橋梁は既に取り壊されている。これは、この地区の統合小学校の建設に伴い、安全な通学路や車道通行の確保のためにやむを得ず撤去されたようだ。撤去後にわかったことは、盛土において表面は約40cmの表土で覆われていたが、内部の盛土材料のほとんどが砂を用いて構築されていた。砂質土のように土に近いと思っていたのだが、完全にきれいな砂であった。



写真9：撤去前



写真10：橋梁撤去後



## 5. 今年の成果と今後の課題

### 【マップの公表】

リニューアルしたマップをHPに公表した。かなりの方にアクセスしていただいていると考えられる。この公表がいろんな活動のきっかけになった。

### 【シンポジウム開催へ】

平成 26 年夏のシンポジウム開催が決定し、現在は、具体的な内容や観光スポットとしての対策などあらゆる準備が進められている。

### 【おろち泣き橋（4連アーチ橋）】

分科会で発見した不思議な音が体験できる「おろち泣き橋」の前面は一部植林で覆われている。河川維持管理のため、この植林を伐採する計画があるのだが、河川内を重機が走ると河床形状が改変され音への影響が懸念される。近々、伐採の有無や切る場合の方法について現地協議がされる予定である。個人的には植林がある方が、神秘的で昔の面影を残していると思っている。



写真11：おろち泣き橋

### 【青い海・緑の大地・人が輝き文化のかおるまち】

浜田には、青い海日本海、新緑や紅葉が楽しめる山々、ユネスコ無形文化遺産に認定された石州半紙などがある。観光ツアーにおいて、今福線だけでなく、海、山、温泉、文化遺産など浜田全体のお宝を活用し、宿泊を伴う浜田市内の観光コースになればと考える。



写真12：石州半紙（浜田市HPより）

今年度は、マップ公表、シンポジウム開催決定、今福線ツアーと大きく進展した年であり、「お宝探し」が「地域おこし」へと発展するきっかけをつくることができた。

今福線分科会は、過年度までは5年で終了するという話もあったが、見えない列車が走りだしたように新たな目標に向かって進みだした。これからも今福線の遺構を後世に残すため、分科会で積極的に活動していきたい。

—以上—